教養演習Ⅱ

相沢 幸悦

授業概要

いわゆるアベノミクスのもとで、円安が進み、株価も上昇してきました。景気も上向き、物価も上昇してきています。長かった超円高・デフレ不況もようやく終わることが期待されています。

本演習では、アベノミクスとはどういうものかを明らかにします。

そのため、戦後の日本経済と金融、資産バブル、平成大不況、政府の経済政策、日本銀行の金融政策について、くわしく指導します。

授業計画

第 1 回	現状の日本経済は
第 2 回	絶望的に貧しかった戦前
第 3 回	戦争放棄と民主化
第 4 回	歴史上まれにみる高度経済成長
第 5 回	高度経済成長がついに終焉
第 6 回	アメリカとヨーロッパへの輸出
第 7 回	日本列島改造論
第 8 回	バブル経済と崩壊
第 9 回	アメリカ型新自由主義の導入
第 10 回	デフレとは貨幣現象なのか
第 11 回	日本銀行のデフレ対策
第 12 回	日本銀行の異次元緩和
第 13 回	デフレ克服は可能か
第 14 回	1 千兆円の政府債務は返済できるか
第 15 回	日本経済のゆくえは
第 16 回	試験

到達目標

デフレが長期化した要因を理解したうえで、日本銀行の異次元緩和によって、本当にデフレを克服できるのかを明らかにします。

アベノミクスというものの概要を理解したもらうことを到達目標としています。

履修上の注意

演習をおこなっている間に、いよいよ、アベノミクスが成功するか否かが、見えてくるはずです。

ですから、新聞をよく読むことや日々のニュースに関心を持ってください。

予習・復習

演習では、資料や新聞記事などを読みます。

事前にわたす資料などを演習前によく読み、演習終了後には、復習してください。

評価方法

レポート（70%）、演習での発言（30%）などで評価します。

テキスト

テキストは使わず、適宜、資料を配ります。

教養演習Ⅱ　　李 相和

授業概要

この演習の課題は、大学で学ぶ目標をしっかり持つこと、読むこと、調べること、書くこと、報告することなど今後の就学に必要なスキルを修得することにある。この演習では、自分で自分の課題を見つけ、考え、解決に向けて進む意欲を持つこと、また社会への関心、国際的な視野を獲得することができるように指導する。

授業計画

第 1 回	本演習の進め方や評価方法
第 2 回	新聞や雑誌の読み方と使い方
第 3 回	専門的な文章の読解力の向上（1）
第 4 回	専門的な文章の読解力の向上（2）
第 5 回	専門的な文章の読解力の向上（3）
第 6 回	専門的な文章の読解力の向上（4）
第 7 回	専門的な文章の読解力の向上（5）
第 8 回	文章の要約力とレジュメの作成（1）
第 9 回	文章の要約力とレジュメの作成（2）
第10回	文章の要約力とレジュメの作成（3）
第11回	各自のテーマによる調査発表と討論（1）
第12回	各自のテーマによる調査発表と討論（2）
第13回	各自のテーマによる調査発表と討論（3）
第14回	各自のテーマによる調査発表と討論（4）
第15回	各自のテーマによる調査発表と討論（5）
第16回	まとめ

到達目標

この演習は、豊かな人間性を備えた企業人になるために、幅広い教養を身につけることを念頭に置き、大学における学習に必要な基礎的学力を向上させることを意図としている。

履修上の注意

・毎回必ず出席してほしい。
・演習は参加型授業なので、積極的に、発言や議論をしてほしい。

予習復習

・配布資料を事前に目を通しておくこと
・発表や講義の要点をまとめること

評価方法

レジュメの作成と発表、課題提出、ゼミでの積極性などを総合的に評価する。

テキスト

・開講時に指示する。
・必要に応じて、資料を配布する。

教養演習Ⅱ　　　　一戸 真子

授業概要

様々なテクノロジーの恩恵を受け、私達の生活は益々便利になってきており、かつ情報も各段に増えた中で、生きることはどのようなことであるかについて理解を深めることができるよう、演習を通して指導する。より多くの人々が幸福になるためには、どのような視点が求められているか、経済との関係について深い考察力を養えるように指導する。

授業計画

第 1 回	人生 100 年の時代の到来
第 2 回	豊かさと幸福の関係
第 3 回	お金と幸福の関係
第 4 回	労働と幸福の関係
第 5 回	家族と幸福の関係
第 6 回	健康と幸福の関係
第 7 回	老いと幸福の関係
第 8 回	自律と幸福の関係
第 9 回	宗教と幸福の関係
第 10 回	幸福の様々な指標
第 11 回	国民総幸福量（GNH）
第 12 回	技術革新と幸福
第 13 回	競争社会と幸福
第 14 回	格差社会と幸福
第 15 回	グローバリゼーションと幸福
第 16 回	試験

到達目標

・幸福とは具体的にはどのようなことを意味するのかについて考えられる。
・経済と幸福の関係について理解を深める。
・幸福と経済の関係性に影響を与える諸要因について理解する。

履修上の注意

特になし。積極的な関心をもっている学生の皆さんを歓迎します。

予習復習

予習 45 分（発表準備資料作成）、復習 45 分（専門用語の理解）。

評価方法

発表点（25 点）、レポート点（25 点）、試験（50 点）

テキスト

・教科書名：『経済は人類を幸せにできるのか？』
・著 者 名：ダニエル・コーエン
・出版社名：作品社

教養演習Ⅱ　　大塚 浩記

授業概要

１年次の教養演習は，２，３，４年次と徐々に専門的な内容に進んでゆく最初の段階の演習である。「演習」とは，何かのテーマについて教員から講義を受けて理解して終わるものではなく，学生自らが何らかの目的やテーマに対して，何かの行動を起こして初めて成り立つものであると考えている。そこで，教養演習Ⅱでは学生のプレゼンテーションを前提とした演習を行う。その際の題材は，例年，学生が選択した興味関心のある事項としているが，話し合いの上。統一的なものにすることもある。また，就職に係わる情報は常に意識してもらうように心掛ける。この点で，上記とは別に時事問題に関する新聞記事等を使用した演習を行うこともある。

授業計画

第 １ 回	演習での姿勢とレジュメについて
第 ２ 回	テーマの選択と資料収集について
第 ３ 回	時事問題（夏季休業中の出来事）を考える①
第 ４ 回	１回目のテーマに基づくプレゼンテーション
第 ５ 回	〃
第 ６ 回	１回目のプレゼンに関係したその続きのテーマの検討
第 ７ 回	時事問題（その時点での出来事）を考える②
第 ８ 回	２回目のテーマに基づくプレゼンテーション
第 ９ 回	〃
第１０回	時事問題（その時点での出来事）を考える③
第１１回	３回目のテーマに基づくプレゼンテーション
第１２回	〃
第１３回	レポートの章立てと結論について（可能であれば「パワーポイント」資料の作成を含む）
第１４回	提出するレポートの途中経過の報告
第１５回	修正したレポートの内容確認
第１６回	レポート（場合によっては定期試験）

※人数等により進度と内容は随時調整します。

到達目標

プレゼン用のレジュメを作成でき，それに基づいた質疑応答ができるようになる。

履修上の注意

人数が少ない場合には，会計ないし経営に関する文献の輪読やレポートを交える。

テーマは上記のとおりだが，到達目標に示したように，講義ではなく演習なので，聞くだけの内容を考えていない。課題やグループワークも含めて受講者が積極的に発言等をしてもらう。

予習・復習

毎回ではないが，事前に下調べを行い，発表のためのレジュメを作成してくる。

プレゼン後にレポート提出のための修正を行う。

評価方法

平常点４５％・レポート（定期試験）５５％程度で評価する。

なお，既定の出席回数に満たない場合には，原則として単位を認定しない

テキスト

ゼミ生が選ぶテーマによっては使用するかもしれないが，特に使用しない予定。

教養演習Ⅱ　　奥山 忠信

授業概要

1980 年代以降に進行した貧富の格差問題を考える。また格差問題を考えるのに必要な経済学の基本的な理論を学ぶ。

授業計画

第 1 回	演習のスケジュールについての説明
第 2 回	ピケティ理論の概要
第 3 回	格差の指標
第 4 回	格差に関するデータ
第 5 回	格差の理論
第 6 回	資本主義の特徴
第 7 回	資本主義と格差
第 8 回	日本の格差
第 9 回	アベノミクスの特徴
第 10 回	貨幣数量説の形成
第 11 回	量的緩和対策
第 12 回	貨幣の謎
第 13 回	日本経済の変化
第 14 回	日本経済の今後
第 15 回	日本経済への提言
第 16 回	レポートの提出

到達目標

格差問題の現状を理解する。必用な基礎理論を理解する。

履修上の注意

自分の意見を積極的に発言すること。

予習・復習

予習を重視し、自分の意見をまとめておくこと。

評価方法

レポートの報告と授業中の発言を重視する。

テキスト

授業中に指示する。

教養演習Ⅱ　　張 英莉

授業概要

本演習の目的は、教養演習Ⅰと同様に、1年生の基礎学力の向上と大学生としての知識、教養を深めることにある。経営学の基本テキストを輪読しながら議論することが演習の中心内容になるが、個々人が共通課題の一部を分担し、プレゼンテーションを行う形式を取り入れる。発表を通して、文献の調べ方、報告内容のまとめ方、レジュメの作り方、発表時の言葉遣いなどをマスターし、2年次以降に必要なスキルを体得する。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション（授業内容、授業方法、評価方法などの説明）
第 2 回	テキストの輪読と議論①：とにかく卒業
第 3 回	テキストの輪読と議論②：何とか就職
第 4 回	テキストの輪読と議論③：一括採用、入社式、新人研修
第 5 回	テキストの輪読と議論④：やっと会社
第 6 回	テキストの輪読と議論⑤：給料
第 7 回	テキストの輪読と議論⑥：労働組合
第 8 回	テキストの輪読と議論⑦：はれて家族
第 9 回	テキストの輪読と議論⑧：企業戦士
第10回	テキストの輪読と議論⑨：じっくり出世
第11回	テキストの輪読と議論⑩：会社人間の意識
第12回	プレゼンテーション①
第13回	プレゼンテーション②
第14回	プレゼンテーション③
第15回	秋期の総括
第16回	期末試験

到達目標

①基礎学力がアップする
②テキストの内容を理解し。要点を整理し、発表できるようになる。
③経営学の基礎知識を身につける。

履修上の注意

無断欠席・遅刻、授業中のスマホいじり、私語、居眠りなどの行為に厳しく対応する。

予習・復習

与えられた課題の発表についてしっかり準備することを求める。

評価方法

授業態度、積極性、発表内容、期末試験を総合して評価する。

テキスト

『会社ってなんだ』（三戸公）を使う。プリントを配布するので、購入は不要。

教養演習Ⅱ　　広瀬 明

授業概要

経済や経営の場では、様々な問題に直面する。経済学や経営学は、そうした問題に対処するためにどうしたら良いかについて、多くの知識を蓄えるための学問である。多くの問題は、過去に発生した同種の問題にどのように対処してきたかについて学べば、解決する。その時に必要なのが、データ処理である。過去の状況と現在のそれとは大きく異なる。過去にあって成功した事例も、現在に置き換えればうまく機能しないこともある。それは何故か、そして、ならばどのようにすれば良いか、については、データ集めで情報処理をする必要がある。本演習では、その導入の部分について、考察したい。

授業計画

第 1 回	はじめに（データ処理の有効性と有用性）
第 2 回	パソコンはどのようにして動いているのか
第 3 回	基本ソフト（OS）とアプリケーションソフト
第 4 回	表計算ソフトとは何か
第 5 回	Excel でできること、できないこと
第 6 回	まずは、表を作成しよう
第 7 回	続いて、グラフを作成しよう
第 8 回	どのデータにはどのグラフが効果的か
第 9 回	相対番地と絶対番地
第10回	コピーを有効に使おう
第11回	金利計算が簡単にできる方法
第12回	単利と複利
第13回	返済金を決定するのは、金利と返済期間
第14回	国債の利回りの計算方法
第15回	70 の法則
第16回	試験

到達目標

本演習では Excel を用いた情報処理ができるかどうか、が重要なテーマである。データを示されて、何を計算しどのように計算するのか、が的確に理解できれば目標達成である。

履修上の注意

演習を進めるにあたって、次の演習内容はその前の演習内容を理解していることを前提に進めることになる。欠席はしないようにすること。やむを得ず欠席する場合は、前の演習の内容を理解しておくこと。

予習・復習

つねにパソコンの Excel に触れておくことをお勧めする。演習で用いたもの以外のデータを処理してみることである。

評価方法

試験で、データを示し、的確にデータ処理できるかどうかを確認する。

テキスト

今のところ考えていないが、ブルーバックスあたりの新書を教科書に指定することも考えている。

教養演習Ⅱ　　文 智彦

授業概要

大学で学ぶため社会で活躍するために必須である論理的思考を身につけることが本演習の目的である。情報があふれかえる今の時代において、情報を取捨選択し、正しい情報を収集加工する能力は重要であり、それらをもって、正しい根拠に基づき主張し判断することが求められている。

論理的思考を学ぶことにより将来、企画作成、戦略構築、ビジネスモデルの変革、等々を行うための基本スキルを身につけるための指導をし、さらにしっかりと文献を読み、議論することにより、コミュニケーション能力を実践的に高めるための指導をする。

授業計画

第　１　回	概論ー論理的思考の重要性
第　２　回	イメージと思いこみの問題点
第　３　回	先入観と固定観念の問題点
第　４　回	メディア情報の問題点
第　５　回	二分論の問題点
第　６　回	正しい根拠の探し方
第　７　回	常識を疑う
第　８　回	役立つ情報の見極め方
第　９　回	簡単な数字の読み解き方
第１０回	帰納法
第１１回	演繹法
第１２回	相関関係
第１３回	因果関係
第１４回	正しい結論の導き方①
第１５回	正しい結論の導き方②
第１６回	総括

到達目標

論理的思考の基本的な手法を理解し活用できるようになる。
実践的コミュニケーション能力を身につける。

履修上の注意

遅刻・欠席には厳しく対応する。積極的に発言できる学生の履修が望ましい。
文献の熟読、発表、議論を徹底して行う。

予習・復習

毎回課題・宿題を提出

評価方法

出席・課題・積極性、等々によって総合的に評価する。

テキスト

授業内で紹介する。

教養演習Ⅱ　吉田 雄司

授業概要

本演習では、簿記の初級から中級レベルの学習を指導します。対象者は主に春期「教養演習Ⅰ」を受講した学生です。春期に続いて、日商簿記３級水準の勉強を行います。夏季休暇中に猛勉強をし、すでに日商３級の基本問題は、解答可能の状況になっていることが前提です。試験勉強のコツは春期と同様ですが、今期は「合格」という結果をいかに出すかに焦点を当てて学習していきます。第 153 回日商簿記検定日は 11 月 17 日（日）です。９月に開講するエクステンションセンターの「日商簿記３級講座」を並行受講してもらいます。授業の前半は検定試験に向けた総合問題を中心に答案練習を行います。試験の結果で、３級合格者は工業簿記を開始し、不合格者は翌年の２月に向け再挑戦の準備に入ります。よって本講座は、次年度の「基礎演習」＝日商簿記２級合格にもつながる内容になっています。１年次に日商簿記３級合格、２年次に簿記２級合格を希望する学生は受講をお勧めします。

授業計画

第　１　回	ガイダンス、仕訳の小テストを実施し成績順座席指定をします。	
第　２　回	論点学習①　商品有高帳、小口現金出納帳、伝票会計	
第　３　回	論点学習②　合計残高試算表の作成	
第　４　回	論点学習③　精算表の作成	
第　５　回	実践問題①　仕訳・合計残高試算表	
第　６　回	実践問題②　仕訳・精算表	
第　７　回	実践問題③　合計残高試算表・精算表の作成	
第　８　回	中間試験：日商簿記３級レベルの実践問題を出題予定	
第　９　回	日商簿記検定３級試験の問題解説と今後の勉強目標の再構築をします。	
第 10 回	３級合格者:日商簿記２級工業簿記開始。	３級再挑戦者＝２月受験の準備開始
第 11 回	工業簿記の勘定連絡図の把握	過去問題集①仕訳・精算表
第 12 回	費目別計算（材料費、労務費、経費）	過去問題集②仕訳・合計残高試算表
第 13 回	個別原価計算	過去問題集③仕訳・精算表
第 14 回	総合原価計算	過去問題集④仕訳・合計残高試算表
第 15 回	標準原価計算	過去問題集⑤仕訳・精算表
第 16 回	定期試験	

到達目標

日商簿記検定３級合格水準に到達すること。

履修上の注意

・エクステンションセンターの「日商簿記検定３級講座」を受講する。
・秋期「中級簿記」を履修してください。

予習・復習

・日商簿記検定３級試験の過去問題集を３回解答してください。

評価方法

・授業への参加意欲と中間試験、定期試験で総合評価をします。
・授業態度不良者は「不可」とする。

テキスト

開講日に公表します。

教養演習Ⅱ　　薄井 和夫

授業概要

テーマ：スポーツとマーケティングの出会い

スポーツとマーケティングの最も基礎的な考え方を勉強し、その関係について考えます。スポーツといった、誰にでもわかっているはずの「常識的な言葉」の意味もおろそかにせず、ひとつひとつをきちんと自分たちで点検し、自分の頭で考えることの楽しさを身につけたいと思っています。

授業計画

第 1 回	演習の概要
第 2 回	スポーツとは何か（1）：スポーツの多様性とスポーツマーケティングの範囲
第 3 回	スポーツとは何か（2）：スポーツ産業とスポーツ市場 ― 「観るスポーツ」・「するスポーツ」と市場の特性
第 4 回	マーケティングとは何か（1）：マーケティングの多様な定義と顧客のニーズ・欲求の区別
第 5 回	マーケティングとは何か（2）：マーケティングにおける理念、戦略、管理
第 6 回	マーケティングとは何か（3）：スポーツとマーケティングにおける営利と非営利
第 7 回	観るスポーツとマーケティング（1）：「観るスポーツ」のマーケティングの構造と市場
第 8 回	観るスポーツとマーケティング（2）：メガスポーツイベント、スポーツイベントのマーケター と消費者
第 9 回	観るスポーツとマーケティング（3）：スポーツチームのマーケティングと企業スポーツ
第 10 回	観るスポーツとマーケティング（4）：スポーツ消費者行動としてのファンとブランド戦略
第 11 回	するスポーツとマーケティング（1）：「観るスポーツ」のマーケティングの構造と市場
第 12 回	するスポーツとマーケティング（2）：スポーツジム、フィットネスのマーケティング
第 13 回	するスポーツとマーケティング（3）：スポーツ消費者行動としての経験価値
第 14 回	するスポーツとマーケティング（4）：スポーツスクールと地域振興のマーケティング
第 15 回	スポーツマーケティングと社会：スポーツマーケティングのグローバル化と国民文化

到達目標

スポーツ、マーケティング、スポーツマーケティングの最も基本的な概念を理解できることを到達目標としています。同時に、それぞれの概念について、自分自身で調べ、考える力を身につけることを目指したいと思います。

履修上の注意

◎演習では、グーグルなどを使ってインターネットで調べてくるという課題を出します。スポーツイベントや組織はグローバル化していますので、日本語のウェブサイトだけでなく、英文のウェブサイトを調べることを嫌がらない態度が望ましいといえます。

◎メールにレポートを添付して提出していただきます。

◎昨今、スマホは使えるがメールは苦手という学生が少なくありませんが、各自、スマホだけでなく、パソコンのメールからファイルを添付してメールを送付できるように、入学時の講習をきちんと受けてください。

◎演習には必ず出席すること、また、30 分以内の遅刻は認めますが、遅刻３回で欠席１回分にカウントされることに注意してください。

予習・復習

事前にわたす資料などを演習前によく読み、演習終了後には復習してください。また、予習・復習のためにネットなどで調べることは必須です。

評価方法

演習への出席を前提とし、演習への討論など参加態度（25%）、演習で出された課題の遂行の状況（25%）、最終期末レポート（50%）によって評価します。

演習では、積極的に疑問や意見を述べる学生、および英文資料をいやがらない学生は、高く評価されます。

テキスト

テキストは使わず、適宜、資料を配り、またインターネットで調査したウェブサイトを利用します。

参考文献が必要な場合は、とりあえず、以下をご参照ください。

◎薄井和夫『現代のマーケティング戦略 ― はじめて学ぶマーケティング基礎篇 ― 』大月書店、2003 年

◎中澤眞・吉田政幸編『よくわかるスポーツマーケティング』ミネルヴァ書房、2017 年

教養演習Ⅱ　　柴田 仁夫

授業概要

経済経営学部で学ぶ主な対象である企業を取り巻く環境は，日々変化している。こうした変化に対応できるかどうかで，企業の存続可能性は変わってくるのである。今日，環境に対応できなければ，大企業といえど存在し続けることは難しくなっている。では一口に「環境」といってもどんなものがあるのだろうか。本ゼミではインターネットによる時事用語や企業の調査などを通して，企業を取り巻く環境の変化を敏感に感じとり，これから本学で学ぶ企業やビジネス，マーケティングの初歩的な考え方を身につけてほしい。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション（授業の進め方）・自己紹介
第 2 回	社長とは？－起業家について【グループワークとプレゼンテーション】
第 3 回	企業の分類について【グループワークとプレゼンテーション】
第 4 回	企業を調べる①－大企業【グループワークとプレゼンテーション】
第 5 回	まとめ（小活①）
第 6 回	企業を調べる②－中小企業【グループワークとプレゼンテーション】
第 7 回	企業を調べる③－ベンチャー企業【グループワークとプレゼンテーション】
第 8 回	企業を調べる④－老舗企業【グループワークとプレゼンテーション】
第 9 回	企業を調べる⑤－外資系企業【グループワークとプレゼンテーション】
第10回	まとめ（小活②）
第11回	気になる時事用語を調べる①－経営【グループワークとプレゼンテーション】
第12回	気になる時事用語を調べる②－IT【グループワークとプレゼンテーション】
第13回	売れるモノはどうやってつるく？－西野カナに学ぶマーケティング
第14回	アニメを活用した地位活性化マーケティングー埼玉県の事例から
第15回	まとめ（総括）
第16回	課題レポート提出の提出

到達目標

与えられた課題に対して自分で調べてまとめ，発表できること。

履修上の注意

講義中の私語，携帯電話や音楽機器等の使用，食事は禁止する。講義の性質上，欠席があると事業計画書を作成できないため，公共交通機関の遅れ以外の遅刻については原則認めない。守れない者には厳しく対処する。

また無断欠席は認めない。

なお，地域ボランティアへの協力や企業訪問など，学外授業に参加してもらうことがある。

予習・復習

レジュメは各自インターネットからダウンロードして準備してもらう。利用方法は講義で説明する。

毎回の講義の中で事前に課題（レポート等）を指示する場合がある。

評価方法

授業態度（50%），提出課題の内容等（50%）により，総合的に判断し評価する。

テキスト

テキストや参考文献は必要に応じて演習中に指示する。

教養演習Ⅱ　大江 清一

授業概要

本演習では日本の経営をより深く理解するための準備として、戦後史を中心とした日本経済の変遷と特質を修得する。日本経済は日本的経営の環境要因の一つであると同時に、日本の企業経営が日本経済を支えているという点において、経済と経営の関係は相互に不可分といえる。

経営学は生きた学問として身につけられなければならないが、歴史的視点を加えることも併せて重要である。日本的経営の環境要因としての日本経済は、過去から積み重ねられた歴史的産物であり、時代の一区切りとして、戦後日本経済の移り行きを経営環境の変遷という視角から考察することは、経営学を歴史的かつマクロ面から理解する上で有益と考えられる。

学んだ知識をもとに日本経済新聞や経営関連誌を自主的に読み進めることは必須であり、講師は強くこれを奨励する。

授業計画

第 1 回	ガイダンス 一経済と経営一
第 2 回	日本経済の発展(1) 一占領期から復興期一
第 3 回	日本経済の発展(2) 一高度成長期一
第 4 回	日本経済の発展(3) 一国際化と経済摩擦一
第 5 回	日本経済の停滞(1) 一バブル崩壊一
第 6 回	日本経済の停滞(2) 一構造改革の試み一
第 7 回	日本経済の構造問題(1) 一日本的経済システム一
第 8 回	日本経済の構造問題(2) 一少子高齢化と労働市場一
第 9 回	日本経済の構造問題(3) 一社会保障と税一
第10回	日本経済の改革(1) 一TPP と農業改革一
第11回	日本経済の改革(2) 一アベノミクスと成長戦略一
第12回	経営環境としての日本経済(1) 一戦後日本経済史と日本的経営一
第13回	経営環境としての日本経済(2) 一日本の産業構造と経営戦略一
第14回	経営環境としての日本経済(3) 一日本の労働市場と日本的労務管理一
第15回	日本経済と日本的経営 一演習のまとめ一
第16回	期末試験

到達目標

本演習の到達目標は、履修生が戦後日本経済の変遷と特質を経営学的な視点から修得することである。本演習を通して経済と経営の不可分な関係を認識するとともに、歴史的観点から経済および経営事象を捉えることに習熟できれば、将来、受講生が企業を中心とする組織に属した際に直面するであろう様々な環境変化の本質をより的確に判断する能力が得られると考える。

履修上の注意

遅刻はやむを得ない理由がある場合には配慮する。

予習・復習

講義後、テーマをもとにテキストの担当箇所について議論するにあたり、それをリードする役割を順次履修者に求める。履修者は積極的に演習に参加することが求められるので、議論のリーダーでない場合も事前にテキストの該当箇所を読んで参加することが必要となる。

評価方法

担当するテーマに関する発表内容、準備状況、議論への参画度等、演習に対する取り組み度合いを 70%、期末試験を 30%の割合で評価する。期末試験は学期中に取り上げたテーマに関して記述式で解答を求める。出題の意図を理解し、演習で学んだ内容を踏まえて論理的に解答しているかどうかに重点を置いて評価する。

テキスト

教科書は使用せず、提供する資料をテキストとする。参考文献は各講義で明示する。

教養演習Ⅱ　　伊藤 孝

授業概要

日本，アメリカなど主要国に所在する大企業の多くは，今日，本国のみならず諸外国でも活発に生産，販売などの活動を行っています。世界各国で活動をおこなう企業は，世界企業，多国籍企業などと呼ばれています。この演習では，日本を代表する世界企業群を個別に取り上げて，国際化の理由，活動内容，現時点の課題などについて，資料に基づき検討します。

日本の企業の国際化について，事例を踏まえて学習し，企業とは何か，国際化とは何かについて，基礎的理解が得られるように指導します。

授業計画

第 1 回	演習の進め方
第 2 回	日本企業の海外進出の現状
第 3 回	トヨタ自動車
第 4 回	日産自動車
第 5 回	ホンダ技研工業
第 6 回	パナソニック
第 7 回	ソニー
第 8 回	ファースト・リティリング（ユニクロ）
第 9 回	セブン・イレブン
第10回	サントリー
第11回	資生堂
第12回	レポートとは何か。何をどう書くべきか。
第13回	レポートの発表と討論（1）
第14回	レポートの発表と討論（2）
第15回	レポートの発表と討論（3）
第16回	試験

到達目標

第1に，資料を読み込み，これに基づいて発表し，討論できるようになることです。第2に，日本企業の海外進出，外国での活動についての現状を知ることです。第3に，自分の研究テーマを見つけ，それについて資料を探し，レポートに仕上げることです。

履修上の注意

（1） 病気などの場合を除いて，毎回欠かさず出席してください。欠席の場合は，メールで事前に連絡してください（アドレスはのちに伝えます）。遅刻の場合は理由を説明してください。

（2）演習のメンバーの意見を理解し，それに対して自分の考えを述べられるように心掛けてください。

予習・復習

事前に配布する資料をよく読んで予習してきてください。演習の終了後は，何を学んだか，資料などを読み直して復習してください。

評価方法

テキストの報告と討論への参加で 30%，提出されたレポートで 40%，試験 30%で評定します。

テキスト

教科書の使用は予定していません。学習・討論資料を予め配布します。